

普通期水稻 田植から中干し前後管理

～田植後管理の徹底により丈夫な稲を作ろう～

本年も、昨年同様に雨量が少なめとなっています。雨が多い年は、いもち病等の発生が多くなり、雨が少ない年は、ウンカ等害虫、雑草の発生が多くなります。気象によって変化しますので対策をお願いします。

1. 田植後の管理

<p>(1) 水管理</p>	<p>①活着促進のため<u>田植後2日間は深水管理</u>に努める。 ②ジャンボタニシ多発田では<u>浅水管理を行い、絶対に干しあげない!</u> ③田植後3日頃、除草剤散布前に、土中の有害ガス抜きも兼ねて<u>3日間程度軽く落水</u>する。その後は<u>間断灌水(灌水4日、落水3日)を繰り返す。</u></p>
<p>(2) 除草剤散布 (水稻暦参照)</p>	<p>初中期除草剤を使用する場合は、<u>基本は散布後7日間は深水で散布し、最低でも田面が見えない程度の水を溜めておく。また、散布後7日間は落水させない。(長いほど除草効果が高くなる)</u> 初中期除草剤散布後、雑草が生えてくる場合は<u>中後期除草剤を散布する。(落水が早いと効果も早く切れます。)</u></p>
<p>(3) 病虫害対策</p>	<p>①いもち病・・・<u>曇雨天や低温が続く場合は十分注意</u>すること! 田植後に<u>余った苗(置き苗)が第一の発生源</u>になるため、植えつぎが済んだら<u>置き苗は早急に除去する。</u>また、育苗期間中にいもち病が発生していた場合は、<u>葉いもちに十分注意</u>する。 ◎<u>いもち病本田防除薬剤</u> ・<u>ノンプラスフロアブル</u> 1,000倍液(2回以内 収穫7日前まで) ・<u>ブラシンフロアブル</u> 1,000倍液(2回以内 収穫7日前まで)</p>
<p>(4) ケイ酸加里の施用 (田植え前に散布している場合は不要)</p>	<p><u>出穂45日前(中干し開始頃)を目安にケイ酸加里30kg/反を必ず施用。</u> ケイ酸加里の施用により<u>病虫害や夏場の高温に負けない丈夫な稲体</u>になる。昨年の様な夏場に高温が続く場合でも、<u>稲体自体の温度を下げる効果や、気温が低く日照時間が少ない条件下でも、光合成能力の向上</u>により十分な養分を生成し蓄えることができる。 登熟向上のために必ず施用しましょう!!</p>

2. 中干しの時期・方法（最重要）

◆中干しの重要性

中干しは稲作りにおいて最も重要な基本技術。中干しが出来ていない田んぼで高品質・高収量は目指せない。中干しの重要性をしっかりと認識し確実に実施することで、中干し後の管理が適切に行える。

◆中干しの効果

- ①過剰分けつ抑制 ②土中の有害ガスの抑制 ③根を深く張らせる（根量増加）
- ④追肥が十分できるよう余分な窒素抑制 ⑤幼穂形成期の均一化（穂揃いを良くする）

◆中干し開始の目安

- 1 株分けつ本数が平均16～18本になったら開始する。（完全落水、排水栓抜き実施）
- 1 株茎数が多すぎると倒伏や屑米増加の原因になります。

◆時期の目安・方法（田植え後30日頃が目安）

- ①夢つくし＝7月15日頃から ヒノヒカリ＝7月20日頃から行う。
- ②約7～10日間実施し、少しヒビが入る程度に行う。
- ③田んぼが白乾状態になった場合は、中干し中でも走水を行う。
- ④砂地は、一度に強めに行わず、2から3回に分けて行う。

農薬散布は基準を守り、周辺作物への飛散に注意する！！

農作業事故には十分注意して作業を行うこと！！

栽培履歴の適正記帳・収穫前の提出を必ず行いましょう！！

問い合わせ 農畜産課 327-3912